

第5節 生 活

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導・評価資料、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の趣旨を踏まえる。
- (2) 小学校学習指導要領における生活科の目標は、

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

である。「具体的な活動や体験」とは、例えば、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして対象に直接働きかける学習活動と、そうした活動の楽しさやそこで気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって表現する学習活動である。これらは、生活科の学習指導に不可欠なものであり、児童の身近な生活圏を対象に、体験と表現を相互に繰り返す中で、気付きを質的に高め、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成されるようにしていくことが重要である。

2 指導計画作成の留意事項

[編成要領](#)（編 P87）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「2学年間を見通した学習活動」の視点

3 活用に当たっての配慮事項

- 本資料で取り上げた実践事例は、指導及び評価の一例である。本資料を参考にし、各学校の実態に応じて、指導計画を工夫し、その特性を生かした指導を行っていただきたい。
- 評価等については、本資料のほか、『小学校教育課程指導・評価資料（埼玉県）』、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）』を参照のこと。
- 取り上げた事例には、ICTの活用例も記載している。ICTの活用に当たっては、生活科の特質として、対象（身近な人々、社会及び自然）と直接関わる活動や体験を重視することや、低学年児童の特性として、対象を自分との関わりで一体的に捉えることなどの点を踏まえながら、資質能力の育成に向けて効果が上がるように、より一層計画的に取り入れていくことが重要である。